

匿名希望 様
愛用ミシン:ジャノメ


思い出になるカーテン

僕がミシンにハマったきっかけは、裁縫上手の祖母の影響だ。大学生のとき、街で見かけた、鳥獣戯画の絵がプリントされた布を気に入った僕は、その布を使って何か作って欲しいと祖母に頼んだ。

すると、祖母は、どうせなら自分で作ってみたらどうかと提案してくれ、祖母の完全協力のもと、僕はナップサックを縫うことにした。出来上がりの形を想像しながら、慎重にゆっくりとミシンの針を進める。長い時間をかけて、ようやく完成したとき、僕は、嬉しさと達成感を味わうことができた。そして、すぐにまた何かを作りたいという気持ちに駆られ、その後も、近くの手芸店に頻繁に出入りするようになった。作るだけでなく、補修する楽しみも知り、靴下やパジャマのゴムをミシンで修復するなどした。

大学を卒業し、今年の春、地元大阪を離れ、僕は東京へとやってきた。引っ越しの費用や洗濯機・冷蔵庫代等で貯金の大半を使った。残ったお金で、テレビを買おうかミシンを買おうか悩んだ挙句、僕は中野の手芸店でジャノメのミシンを購入した。

まず最初に作ったのは、カーテンだった。僕の住むアパートは変わった構造で、隣に住む大家さんのベランダと僕の部屋のベランダが繋がっている。そのため、ひょいっと覗くと、カーテンのない僕の部屋は丸見えの状態だったのだ。引っ越してすぐにもかかわらず、早くも散らかっている僕の部屋を見られるのは恥ずかしい。カーテンを作って、隠そうというわけだ。



うちには、ベランダに繋がる大きな窓とは別に、小型の窓もあり、練習として、先にそちらのカーテンを作ることにした。小さいカーテンには、ハサミやセロテープが置けるようポケットもつけた。ソーイングをやっていく上で、こういった一手間加えるアイデアを考えている時間も楽しい。そして、小さいカーテンの経験を活かし、今度は大きいカーテンを縫っていく。大きな白いキャンバスの布を買ってきて、その大きさに苦勞しながらも、何とか縫い上げた。白を選んだのは、後々、カーテンに別の布を縫い足していきたいと考えていたからだ。その後、鍋敷やブックカバーなども作ったのだが、そこで余った布をカーテンに縫い付けることで、ソーイングの思い出がカーテンに宿り、裁縫がより一層好きになった。鳥獣戯画の布の余りもまだ持っていたので、それもカーテンに縫い合わせた。

これから、まだまだたくさんの物を、ミシンで作っていこう。思い出になるカーテンとともに、裁縫生活を満喫していきたい。